



額装
表装
画材

絵具屋 吉吉
〒231-0032
横浜市中区不老町 1-4-12
TEL 045-641-9318
営業時間 11:00 ~ 18:00
定休日 日曜・月曜

横浜市市民ギャラリー展覧会スケジュール 2019年2月~5月

2019
2月

第31回 神奈川書家三十人展 [3階]
1/30~2/4 10:00~18:00 ※最終日~16:00
神奈川県を代表する書家30人の新作を展示。ギャラリートークも開催
主催:神奈川新聞社

神奈川県高等学校 定時制通信制生徒作品展 [2階]
1/30~2/4 10:00~18:00 ※最終日~15:00
県内の定時制通信制に通う高校生による総合作品展
主催:神奈川県高等学校定時制教育振興会

第31回 川へのドア展 [1階]
1/30~2/4 10:00~18:00 ※初日13:00~、最終日~16:00
横浜国立大学美術科の卒業生たちのグループ展。絵画50点
主催:川へのドア

共催 上田順平 個展「シン/エン」 [地下1階]
1/31~2/17 10:00~18:00 ※最終日~15:00
器の起源から現代までの「用」を主題にした多様な焼物による造形
主催:イムラアートギャラリー

グループ展 [3階B]
2/5~2/11 10:00~18:00 ※初日13:00~、最終日~16:00
本校の在々木教室で学ぶ生徒10名による油彩展
主催:榊会

第39回 公募静雅書展 [2階]
2/5~2/11 10:00~18:00 ※初日13:00~、最終日~16:00
書作品(漢字・かな、近代詩文書、少字数)約120点
主催:静雅書道会

第3回 美しき仏たち [1階]
2/5~2/11 10:00~17:00 ※初日13:00~、最終日~16:00
様々な仏の姿を軸、額、厨子などに彩色。心をこめ表現
主催:斉藤宏子仏画教室

横浜美術友の会 絵画教室受講生作品展 [2階/3階]
2/12~2/17 10:00~18:00 ※初日14:00~、最終日~16:00
横浜市内最大の絵画教室。受講生700人の受講生作品展
主催:特定非営利活動法人 横浜美術友の会

校外展 [1階]
2/12~2/17 10:00~18:00 ※初日14:00~、最終日~16:00
東海大学文化部連合会写真部が毎年行っている学校外での写真展
主催:東海大学文化部連合会 写真部

合同写真展 フォト'19 [全展示室]
2/19~2/25 10:00~17:00 ※初日13:00~、最終日~15:00
横浜を中心に神奈川/東京の個性ある19団体による合同写真展
主催:フォト展実行委員会

横浜国立大学教育人間科学部 書道ゼミ 卒業制作展 [3階B]
2/26~3/4 10:00~17:00 ※初日13:00~、最終日~16:00
四年生が学業の集大成として臨書大作と制作作品を展示
主催:横浜国立大学 教育人間科学部 書道ゼミ

日本風景写真協会 神奈川支部 第15回 作品展 彩時記 [2階]
4/2~4/8 10:00~18:00 ※初日13:00~、最終日~16:00
日本の風景をテーマにした写真展。全信写真を65点
主催:日本風景写真協会 神奈川支部

3月
主催 [地下1階/1階]
横浜市市民ギャラリーコレクション展2019 昭和後期の現代美術 1964~1989
3/1~3/17 10:00~18:00
1964年の開館当時から現代美術を紹介してきた横浜市市民ギャラリーの企画展「今日の作家展」出品作家の作品を中心に構成。時代とその表現を両面から探ります。約50点を予定。特集展示は「吉仲大造、その表現」。

第51回 主体美術神奈川作家展 [3階]
3/5~3/11 10:00~18:00 ※初日13:00~、最終日~16:00
F100号程の大作、油彩を中心とした平面作品 約50点
主催:主体美術神奈川

第14回 アトリエ・ポルト展 [2階A]
3/5~3/11 10:00~17:30 ※初日12:00~、最終日~16:00
油彩・アクリルを主体にした個性豊かな作品を発表
主催:アトリエ・ポルト

日本丸洋画同好会 第10回 作品展 [2階B]
3/5~3/11 10:00~18:00 ※初日13:00~、最終日~16:00
同好会創設10年記念。水彩、油彩、パステル画 約60点
主催:日本丸洋画同好会

彩の会 風景画展 [3階]
3/12~3/17 10:00~17:00 ※初日13:00~、最終日~16:00
スケッチを元に水彩、油彩、日本画にて10号~30号 約120点
主催:彩の会

第67回 書作展 [全展示室]
3/20~3/25 10:00~18:00 ※最終日~15:00
漢字、かな、篆刻、刻字を網羅した、誰でも出品できる公募展
主催:横浜書作協会

第41回 日月書道展(公募) [全展示室]
3/27~4/1 10:00~18:00 ※最終日~16:00
漢詩、和歌、俳句を題材とした伝統的正統書。大作、小品、学生書初め等
主催:日月書道会

4月
創立50周年 キヤノンフォトクラブ 神奈川 写真展 [2階]
4/2~4/8 10:00~18:00 ※初日13:00~、最終日~15:00
「神奈川のおか」をテーマにしたカラー、モノクロ写真作品70点
主催:キヤノンフォトクラブ神奈川

*2018年11月20日時点の情報です。主催者の都合により情報変更されることがあります。

5月
第25回 横浜彫塑研究会 彫刻展 [1階]
4/2~4/8 10:00~18:00 ※初日12:00~、最終日~16:00
横浜彫塑研究会(since1962)による、彫刻作品40点とデッサンの展示
主催:横浜彫塑研究会

郷右近 健二 横浜百景完成記念展とその仲間達 [3階]
4/3~4/14 10:00~18:00 ※最終日~16:00
失われゆく横浜の風景をスナップリングで描く、百作完成記念展
主催:JVU

浜美術連盟 美術展 [2階B]
4/9~4/14 10:00~17:00 ※初日13:00~、最終日~16:00
5ヶスクールと一般公募で油彩、水彩、パステル150点
主催:浜美術連盟

第7回 点の解展 [地下1階/1階]
4/9~4/14 10:00~18:00 ※初日13:00~、最終日~16:00
現代美術の作家25名による大作をメインにした展示
主催:点の解

第43回 光彩会展 [3階]
4/16~4/22 10:00~17:30 ※初日13:30~、最終日~15:00
水彩画で風景、花、人物、F6-50号、ハガキ絵とも、150点
主催:絵の仲間 光彩会

JPA ブルーベイヨコハマ展 [2階]
4/16~4/22 10:00~17:00 ※初日13:00~、最終日~16:00
会員の内で横浜近郊の展覧者が、自由に展示表現する写真展
主催:一般社団法人 日本写真作家協会

小川勝久フォトアートグループ展 [1階]
4/16~4/22 10:00~18:00 ※初日13:00~、最終日~15:00
「デジタルフォトアート」の自由な表現による創作品50点
主催:小川勝久フォトアート

クラブ合同写真展 [2階A/3階]
4/23~4/29 10:00~17:00 ※初日13:00~
9クラブ130名が参加しての合同写真展。A3の写真で500枚
主催:かながわ写真同好会

朋友会 日本画展 [2階B]
4/23~4/29 10:00~18:00 ※初日12:00~、最終日~16:00
仙波先生指導の会員が個性を生かした、人物や風景、花、模写作品
主催:朋友会

2019年度 横浜金沢写真連盟・横浜金沢観光協会 合同公募展 [3階]
6/4~6/10 10:00~17:00 ※初日14:00~、最終日~16:00
「自由」と「金沢」2部門の公募入選作品展。写真150点
主催:横浜金沢写真連盟

公募 第22回 中美神奈川展 [2階]
6/4~6/10 10:00~17:00 ※初日14:00~、最終日~16:00
油彩画を中心に水彩、日本画等 200号以下約60点
主催:中央美術協会 神奈川支部

第36回 よこはまファミリー写生大会 展覧会 [地下1階]
6/7~6/10 10:00~17:00 ※最終日~15:00
横浜市PTA70周年記念よこはまファミリー写生大会受賞作品展
主催:横浜市PTA連絡協議会

SPACE FACTORY 2019 シリーズ 「日本のこころ」vol.4 again 「二人の姫-木花之佐久夜鹿売命と豊玉毘売命-」 [地下1階]
4/28(日) ①11:30開演 / ②15:00開演 / ③18:30開演
(※③は横浜市市民ギャラリー共催)
4/29(月 祝) 14:00開演 受付は開演の15分前より
古事記を題材にした音楽、美術、舞踊、演劇のコラボによる体験型パフォーマンス
一般4,000円(前売3,800円)、横浜市民3,000円、学生2,000円
主催:SPACE FACTORY http://spacefactory.kmlw.net/

日本画材料

横浜市中区不老町 1-4-12
TEL 045-641-9318
営業時間 11:00 ~ 18:00 日曜・月曜定休
http://www.sankichi.com

貸館担当から

展示室の空室は抽選なしで利用可能

抽選後の空室は、先着で申込みを受けています。10名未満のグループのみなさんも、ご利用希望日の6ヶ月前の月から、先着順で展示室を利用できます。当館の空室情報を、ぜひご確認ください。
横浜市市民ギャラリー ホームページから ▶ 展示室 ▶ 空室申込 をチェック!
http://ycag.yaf.jp/gallery_available/vacant_room/
横浜市市民ギャラリー Tel:045-315-2828



2階展示室。A5と区切って使用することもできます。 photo takahiro/ogawa

催し物ピックアップ 横浜美術館

イサム・ノグチと長谷川三郎 -変わるものと変わらないもの-

2019年1月12日(土)~3月24日(日) 10:00~18:00
※2019年3月2日(土)は20:30まで(入館は開館の30分前まで)
休館日:木曜日(2019年3月21日[水・祝]は開館)、3月22日(金)

1950年、彫刻家イサム・ノグチと、画家長谷川三郎は運命的に出会い、爾来ふたりは固い友情で結ばれます。長谷川はノグチにとって日本の古い文化遺産への無二の案内役となり、ノグチが日本の美の本質を理解するうえで重要な役割を果たしました。一方、ノグチは対話を通して長谷川の制作意欲を奮い立たせ、長谷川がそれまでにない創作の地平を開きつなげを与えました。

本展は、ふたりの芸術家の交友を焦点に、彼らが見、何を考え、何を指したのかを、1950年代を中心に、ノグチ作品約50点、長谷川作品約70点を通して明らかにしようとするものです。

[お問合せ] 〒220-0012 横浜市西区みなとみらい3-4-1
TEL 045-221-0300 FAX 045-221-0317 <https://yokohama.art.museum/>

催し物ピックアップ 横浜市市民ギャラリーあざみ野

あざみ野フォト・アンニアル 長島有里枝展 知らない言葉の花の名前 記憶にない風景 わたしの指には読めない本 +平成30年度横浜市所蔵カメラ・写真コレクション展 暗くて明るいカメラの部屋 Curated by 野村浩

2019年1月26日(土)~2月24日(日) 10:00~18:00
休館日:1月28日(月)
横浜市市民ギャラリーあざみ野 展示室1・2 入場無料

写真表現の現在を切りとる企画展と、収蔵する約10,000件の横浜市所蔵カメラ・写真コレクションを活用し、様々な切り口で紹介するコレクション展を「あざみ野フォト・アンニアル」として同時開催。

企画展は、1993年のデビュー以来、ラディカルな視点で「家族」や「女性」のあり方を問い続けてきた写真家・長島有里枝の個展を開催。2008年8月から2009年7月にわたって文芸雑誌「群像」に連載され、2009年に単行本化された短編集「背中の記憶」(2010年第26回読者誌エッセイ受賞)を起点として構成します。コレクション展は、コミック本「CAMERAer-カメラになった人々」が話題のアーティスト、野村浩をゲスト・キュレーターに迎え、収蔵品と野村の作品を合わせて展示します。

[お問合せ] 〒225-0012 横浜市青葉区あざみ野南1-17-3 アートフォーラムあざみ野内
TEL 045-910-5656 FAX 045-910-5674 <http://artazamino.jp/>

2019年 第42回 神奈美公募展
2019年5月7日(火)~5月12日(日) 9:00~18:00 (最終日は16:00迄)

[会場] 神奈川県民ホールギャラリー 第4・5展示室
[応募作品] 油彩、水彩、アクリル、日本画、ミクストメディア、墨絵、パステル、和紙画、版画、装幀、陶芸、ガラス工芸、創作人形、等

[応募資格] 18歳以上
[出品料] 3点まで5,000円、4点以上の場合、1点増すごとに1,000円加算。
[搬入] 2019年5月6日(月) AM9:30~11:30 県民ホール裏口受付にて。
[搬出] 2019年5月12日(日) PM4:00~5:00迄。
[授賞] 優秀作品には、神奈川美術協会賞、神奈川県知事賞、横浜市長賞等を授与。

神奈川美術協会 事務局 〒246-0023 横浜市瀬谷区阿久和東3-2-1 山本勝彦方
TEL/FAX 045-367-3850 <http://kanabi.on.coocan.jp>

since1964 思い出コラム

横浜市教育文化センター

1964年に開館した横浜市市民ギャラリーは、1974年に新築の横浜市教育文化センター内へ移転しました。それから約40年の間、横浜市市民ギャラリーは教育文化センターの中で国内外の現代美術を発信する拠点として、また多くの美術団体の発表の場として親しまれてきました。そして開館から50年の節目の年、2014年に、文化施設が立ち並ぶ紅葉坂の丘の上へ2度目の移転。建物が変わっても、美術を核とした文化芸術活動の拠点としての使命は、半世紀を超える歴史とともに「文化の丘の市民ギャラリー」へと引き継がれています。



横浜市教育文化センター開館式(1974年7月5日)

多彩なジャンルの創造活動支援

8月の横浜市市民ギャラリーは、美術だけではなく音楽やダンスなど様々なジャンルのイベントが目白押しでした。

リユートの名手 金子浩さんとバロックダンスの第一人者 市瀬陽子さんの共演による「美しきリユート〜バロック・ダンスとの邂逅」(8/24)、国内を代表するサクソフォン奏者 須川展也さんを迎えた「須川展也plays「ジャズ」〜サクソフォン・ソロ」(8/26)では、それぞれ手連手のパフォーマンスを多くの皆さまに堪能していただいたほか Dance Dance Dance @ YOKOHAMA 2018の関連イベントとして横浜市のアーツフェスティバルを賑わかしました。また、8/21~8/27で開催の「偉大な芸術家の思い出〜没後10年 山岡優子先生を偲んで」では、日本のピアノ界の草分けであり、演奏だけではなく国際的なアーティストの育成に尽力した横浜のピアニスト 故山岡優子の活動やプライベートを記した写真150点余りを展示し、音楽ファンを始めとする多くの方々に改めてその功績を伝える事ができました。また写真だけではなく展示室内にピアノを設置し、縁あるピアニスト達の連日の演奏や、駆け付けた指揮者の井上道義さん、ヴァイオリン奏者の水野佐知香さん、ピアニストの伊藤恵さん、声楽家の柳澤涼子さんといった日本を代表する音楽家のトークや演奏など、横浜市市民ギャラリーは音楽に包まれた一週間でした。



須川展也plays「ジャズ」〜サクソフォン・ソロ(8/26) 来場者:77名



須川展也plays「ジャズ」〜サクソフォン・ソロ(8/26) 来場者:109名



偉大な芸術家の思い出〜没後10年 山岡優子先生を偲んで(8/21~8/27) 来場者:657名

YOKOHAMA CIVIC ART GALLERY 横浜市市民ギャラリー

横浜市市民ギャラリーの総合情報誌 vol.64 2019年2月~2019年5月

アートヨコハマ ART YOKOHAMA

64 2019.02-2019.05
Yokohama Civic Art Gallery
Art News Magazine

横浜市民ギャラリーには約1,300点の所蔵作品があります。これらの作品は1964年の開館以来、企画展や国際展などの機会に収蔵されました。横浜市民ギャラリーは貸会場として市民の皆様への美術発表の場として親しまれる一方、1989年の横浜美術館開館まで市内の美術施設として中心的な役割を担ってきた側面があり、所蔵作品にも当時の横浜の美術シーンが反映されています。奇しくも1989年は昭和の最終年にあたるため、当館の所蔵作品の背景には「昭和」が深く関わっているといえるでしょう。

「平成」の最終年に開催する今回のコレクション展では、昭和後半期にスポットをあて、その当時生み出された表現と時代背景を両面から考察するため、開館より開催されてきた現代美術を紹介する年次企画展「今日の作家展」の出品作家の作品を中心に展示し、横浜を舞台に発表された昭和後期の表現を見つめ直します。

特集展示では、戦後・昭和後期を駆け抜けるように制作をおこなった吉仲太造の全所蔵作品を展示し、その足跡を辿ります。また会場内では本展にあわせて収録した、収蔵作家の中林忠良、若江漢字のインタビューを上映します。

特集展示 吉仲太造、その表現

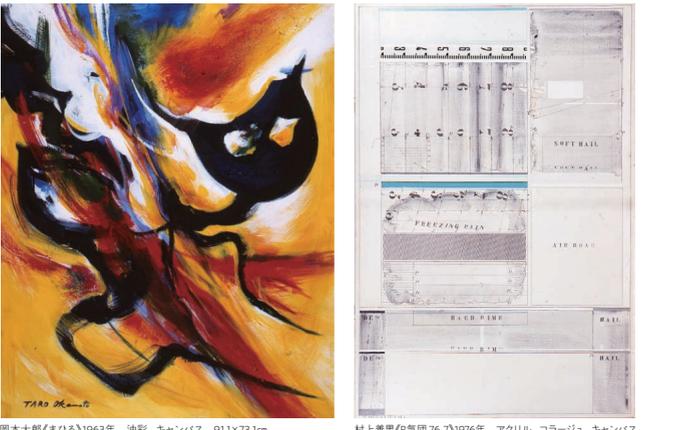
吉仲太造は1950年代から1980年代まで活躍した作家で、その活動期がまさに昭和後期にあたります。また横浜市民ギャラリーの「今日の作家展」にも4回(1965、1974、1975、1976年)出品を重ねるなど、当時の現代美術における重要な作家のひとりです。今回の特集展示では吉仲の当館所蔵作品全7点を一堂に展示します。

担当から一言
齋藤里紗(当館学芸員)

当館の企画展「今日の作家展」と「コレクション展」とのコラボレーションともいえる、現代美術に特化した内容です。作品は昭和後期のものが中心になります。時代を振り返りながら、今も古びない表現の数々をお楽しみください。



吉仲太造《夜》1974年 シルクスクリーン、油彩、キャンバス 91.7×116.8cm
吉仲太造《茶壺》1974年 シルクスクリーン、油彩、キャンバス 91.7×116.8cm
吉仲太造《青》1977年 合成樹脂、アルミ板 72.3×60.3cm
吉仲太造《夜》1974年 シルクスクリーン、油彩、キャンバス 91.7×116.8cm
吉仲太造《猫》1974年 シルクスクリーン、油彩、キャンバス 91.7×116.8cm
吉仲太造《茶壺》1974年 シルクスクリーン、油彩、キャンバス 91.7×116.8cm
吉仲太造《青》1977年 合成樹脂、アルミ板 72.3×60.3cm
吉仲太造《夜》1974年 シルクスクリーン、油彩、キャンバス 91.7×116.8cm



岡本太郎《まぼろし》1963年 油彩、キャンバス 91.1×73.1cm
若江漢字《Winter》1990年 ステンシル 66.5×50.5cm
村上善男《新聞紙、鉄釘、鋸、ノコギリ》1964年 アクリル、コラージュ、キャンバス 194.0×130.0cm

関連イベント ※いずれも参加無料、申込不要

- 講演会「1964年から：現代美術と横浜市民ギャラリー 吉仲太造を中心に」
3月3日(日)14:30~16:00 会場：4階アトリエ
出演：光田由里(美術評論家)
- 学芸員によるギャラリートーク
3月10日(日)14:00~14:30 会場：展示室1、B1
- 鑑賞サポーターによるトーク
3月9日(土)、16日(土)14:00~ 会場：展示室1、B1

出品作家
岡本太郎、池田龍雄、高松次郎、斎藤義重、菅木志雄、宮脇愛子、村上善男、吉仲太造、中林忠良、吉田克朗、元永定正、若江漢字、草間彌生、稲木秀臣、佐藤努、一原有徳、岡田博 他 約50点を予定。(出品作家は都合により変更となる可能性があります)

横浜市民ギャラリーゆかりの作家たち vol.14 吉仲太造

吉仲太造は1928年、京都生まれ。小学校卒業後に徒弟修業を経験した後、18歳より行動美術研究所に学びます。1946年第1回行動美術展に初出品、初入選。1952年に上京。1953年第8回行動美術展で行動美術賞を受賞するも翌年の出品を最後に同会を退会。1955年には岡本太郎が前衛作家を集めた二科会第9室に芥川沙織や村上善男、堀内正和らとともに出品、また評論家の瀧口修造の企画による初個展を神田のタケミヤ画廊で開催。1956年には国内にアンフォルメルを伝えた「世界・今日の美術展」に出品するなど頭角をあらわしていきます。吉仲の作風は1950年代中盤までは幾何学的な画面構成に原色を用い、一部に具象的なモチーフも登場していましたが、次第に描画を離れ、釘や、新聞紙の株式欄や不動産欄を切り抜いたものを画面全体に敷き詰めるように貼りつけた作品を発表するようになります。背景には1960年の安保闘争と前後する社会の変容や、これを受けて「読売アンパバン展」出品作家らが反芸術的な方向に舵を切っていく、またそれが終息していく状況などがありますが、吉仲はそれらから距離を取りながらも、外部の目まぐるしい変化に相対する自身の内部を客体化することに専念しました。以降も吉仲は作風を変化させながらも一貫して平面上で制作をおこない、自身の表現を追求していきます。

吉仲太造《罫》1964年 新聞紙、鉄釘、鋸、ノコギリ 181.6×242.4cm

2018年1~12月

「自分で考えて、自分でつくる」ことを大切に、一人ひとりのペースに寄り添った造形活動を行うハマキッズ・アートクラブ。2018年も幼児・児童や親子を対象に、10回の講座を開催しました。講師の先生のお話をしっかり聞いて、最後まで自分で頑張る制作に取り組んだり、みんなで着飾って楽しくダンスを踊ったりと、たくさん子どもたちの笑顔に出会えました。手や体を動かしながら、自分で考えて何かをつくってみるとワクワクがいっぱい! ハマキッズ・アートクラブへのご参加をお待ちしています。

*2019年4月からの講座は3月下旬にチラシやホームページでお知らせする予定です。

- 1 「スチロールアート」1/27 講師：宇田川純子 小学1~3年生：21名
- 2 「べったんアート」2/17 講師：三ツ山一志 年少~年長と保護者：22組49名
- 3 「トートバッグをつくろう」4/22 講師：横田佳子 年少~年長と保護者：21組41名
- 4 「えのぐであそぼう」5/26 講師：山田佐映子 年少~年長と保護者：19組35名
- 5 「油絵に挑戦!」6/23 講師：東麻奈美 小学4~6年生：24名
- 6 「へんてこ動物をつくろう!」7/22 講師：ミロコマチコ 小学1~6年生：24名
- 7 「スナッチとおどろろ!親子でダンスパーティー★」8/25 講師：砂山典子 小学1~6年生と保護者：11組22名
- 8 「マリンドームをつくろう」9/1 講師：大竹美佳 年長：28名
- 9 「モビールをつくろう」11/10 講師：宇田川純子 小学1~3年生：22名
- 10 「クリスマスかざりをつくろう」12/1 講師：三ツ山一志 年少~年長と保護者：16組32名



えのぐであそぼう



べったんアート
スナッチとおどろろ!親子でダンスパーティー★

2018年11月から12月の大人のためのアトリエ講座では、3つの講座を開催しました。Dance Dance Dance @ YOKOHAMA 2018にあわせて企画した「絵画とダンスのワークショップ」では、絵画の主題となった舞踊の歴史を学んだ後、ワルツを中心としたダンスを実際に踊りました。「金継ぎ入門」では、参加者がそれぞれ持参した小さな欠けのある陶磁器を、本物の漆を使って補修し、金粉蒔きによって装飾する伝統的技法を体験しました。制作の基本的な技法を学ぶ「デッサン」では、実物の林檎をモチーフに立体感と質感を鉛筆描写で丁寧に捉えて、一枚の作品を完成させました。バラエティに富む内容の講座に幅広い層の方たちが参加し、それぞれの創造活動をたのしみました。

*2019年4月からの講座は3月下旬にチラシやホームページでお知らせする予定です。

- 1 「絵画とダンスのワークショップ 絵画に描かれたダンスと音楽~印象派の舞踏会(ワルツ)」11/3 講師：市瀬陽子 参加者：16名
- 2 「金継ぎ入門 欠けた器を漆でなおす」11/15,11/22,11/29,12/6 講師：うるしさん 参加者：11名
- 3 「デッサン~立体感と質感について実践から考える」11/30,12/7,12/14,12/21 講師：石田淳一 参加者：14名



絵画とダンスのワークショップ 絵画に描かれたダンスと音楽~印象派の舞踏会(ワルツ)



金継ぎ入門 欠けた器を漆でなおす
金継ぎ入門 欠けた器を漆でなおす
デッサン~立体感と質感について実践から考える
デッサン~立体感と質感について実践から考える

今回で3回目となる「新・今日の作家展」では、制作の過程で出会った人やものを通じて、様々な視点を取り込んでいく作家3名を紹介しました。岩井優さんは、これまで撮影してきた接点のない動画の堆積によって構成した映像作品と、展覧会会期前の約半年間のうちに当館で排出したシュレッダーの紙屑を展示室の床に敷き詰めたインスタレーションによる新作「作業にまつわる層序学」を展示し、日常ではあまり意識されない作業の層があることを思い起こさせる空間をつくりました。家族を主題としながら他者との関係性を探求してきた川村麻純さんは、日本に暮らすイスラム教徒の墓所に関する問題を知ったことを期に制作された映像と写真による新作「Tea Catcher」を発表し、文化の境界を越えて共通する死への向き合い方について考える機会をもちました。沖縄と新潟を拠点にしながら土地や国家間の歴史や制度に着目して制作してきた阪田清子さんは、塩の結晶や海岸で拾い集めた漂着物、貝殻などが素材になった作品や対岸をテーマにした映像作品など海を巡るイメージから構成された展示によって、境界線を行き来する視点をあらわしました。会期中のイベントでは、各作家とゲストによる対談をおこない、それぞれの作家の制作について、さらに展覧会全体の理解を深める機会になりました。会場では、表現方法の異なる作家の作品をそれぞれの視点から鑑賞される来場者の方が多く見られました。



阪田清子《Hair brush No.10》2014年 / 《うみべの風景(部分)》2016年 / 《空を漕ぐ》2018年
川村麻純《Tea Catcher》2018年 展示風景
岩井優《作業にまつわる層序学》2018年 展示風景
岩井優《作業にまつわる層序学》2018年 展示風景

【展覧会データ】
新・今日の作家展2018 定点なき視点
2018年9月21日(金)~10月8日(月)18日間 10:00~18:00
横浜市民ギャラリー 展示室1B1 出品点数：33点
展覧会入場者数：3,344名+関連事業参加者：217名=合計3,561名

【関連イベント】

対談「舟と橋、想像力について」
阪田清子×倉石信乃(明治大学理工学研究所総合芸術系教授)
9月22日(土)15:00~16:30 会場：4階アトリエ

対談「幽霊のはなし」
岩井優×久保明教(一橋大学大学院社会学研究科准教授)
9月29日(土)15:00~16:30 会場：4階アトリエ

対談「他者との関係性について」
川村麻純×鈴木理策(写真家)
10月6日(土)15:00~16:30 会場：4階アトリエ

学芸員によるギャラリートーク
9月30日(日)14:00~14:30 会場：展示室1、B1
主催：横浜市民ギャラリー(公益財団法人横浜芸術文化振興財団/西田装美株式会社 共同事業体)
協賛：芸術文化振興基金
協賛：アサヒビール株式会社
協力：Takuro Someya Contemporary Art



横浜市民ギャラリー
〒220-0031横浜市西区宮崎町26-1
TEL 045-315-2828 FAX 045-315-3033 <http://ycag.yaf.jp/>
10:00~18:00(入場は17:30まで)毎月第3日曜日、年末年始休館
<http://facebook.com/ycag1964> twitter.com/ycag1964

電車
●JR・横浜営地下鉄「桜木町駅」から徒歩10分 ※紅葉橋交差点を過ぎて左斜め①の道を進みます。
●京急「日ノ出町駅」から徒歩8分 ※野毛坂交差点を戸部方面に右側歩道を進み②の坂道を上がります。

バス
●市営バス103・292系統「戸部1丁目」から徒歩2~4分(横浜駅方面から103系統に乗り、戸部1丁目下車すると徒歩2分)
●市営バス89系統「野毛坂」から徒歩4分
●市営バス8・26・58・101・105・106系統「紅葉坂」から徒歩7分

ご利用ください 送迎車サービス
桜木町駅⇄横浜市民ギャラリーを無料で巡回おからの不自由な方、高齢者に配慮した無料送迎サービスです。車いすのまま、ご乗車可能です。定員9名と限りはございますが、どんな様でもご利用いただけます。ぜひご利用ください。平成29年度は、年間36,000名以上の方にご利用いただきました。

【送迎車時刻表】 JR桜木町駅発 横浜市民ギャラリー発

9	00	45▲	10	10▲	30▲	50▲
10	00▲	20▲	11	10▲	30▲	50▲
11	00▲	20▲	12	10▲	30▲	50
12	00▲	20▲	13	10	30	50
13	00	20	14	10	30	50
14	00	20	15	10	30	50
15	00	20	16	10	30	50●
16	00	20●	17	10●	30●	45●
17	00●	20●	18	00●		

※火曜日は展示作業日のため▲印の運行がありません。
※月曜日、第3日曜日前日の日曜日は撤去作業日のため▲印の運行がありません。
※横浜市民ギャラリー主催の展覧会開催中は、曜日問わず全ての便を運行します。
※第3日曜日、年末年始は休館日のため運行がありません。また、展示のない日も全便運休です。
※交通事情、天候、施設状況等により運行が変更になる場合があります。